

令和3年度 障がい者スポーツ医養成講習会のご案内

謹啓 先生方におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

先生方には、平素よりパラスポーツの振興につきまして格別のご高配を賜わっておりますことを、厚くお礼申し上げます。

最近のパラスポーツを取り巻く環境をみますと、2013年に東京大会開催が決定され、以降、障がい者スポーツ行政の文部科学省移管、スポーツ庁設置、第2期スポーツ基本計画の策定など次々と大きな変化がみられ、それと同時に国民やマスコミなどの関心も高まり、パラスポーツへの行政、企業などからの支援も増えてきております。また、これらを背景に障がいのある方々のスポーツへの参加意欲も高まってきており、今年度は、東京2020パラリンピック競技大会も開催され、パラスポーツをさらに大きく前進する絶好の機会となりました。

ご承知のとおり、パラスポーツは、病気や事故等で入院し障がいを負った人々がADLと体力の向上を図り社会復帰を目指すリハビリテーションスポーツと、退院して体力の維持・向上を図りながら社会参加（インテグレーションの確立）を目指す生涯スポーツ、さらに競技力を競いメダル獲得を目指す競技スポーツ（パラリンピック等）とに大きく分かれます。

近年は、障がい者の高齢化とともに脳卒中による片麻痺や内部障がい者も増え、さらには障がいの重度化、重複化などが進み、障がい者が継続的にスポーツを行う上で医学的支援（メディカルチェック等）が欠かせないものとなっています。さらには、パラスポーツの現場では、医療サポート面で医師の専門分野の知識だけでなく他科の分野の知識も必要とされてきています。

このような中、協会としては多くの障がい者が安全にスポーツに取り組めるよう、幅広く障がいに対する理解を持ち効果的に医学的助言ができる医師の養成を目的に、パラスポーツにご協力頂ける先生方を対象に、平成15、16年度には協力医を対象とした研修会を、平成17年度からは資格認定講習会である「障がい者スポーツ医養成講習会」を開催して参りました。

その結果、現在公認障がい者スポーツ医は600名以上となっておりますが、前述した現況から今後さらに需要も増え続け、ますます先生方のご協力を頂かなければならない状況になってきております。

何卒、このような現状をご理解いただき、ご多忙とは存じますが、是非とも障がい者スポーツ医養成講習会の受講をご検討下さいますようお願い申し上げます。

謹白

令和3年11月吉日

公益財団法人日本パラスポーツ協会
常務理事 山田登志夫
医学委員長 陶山 哲夫